

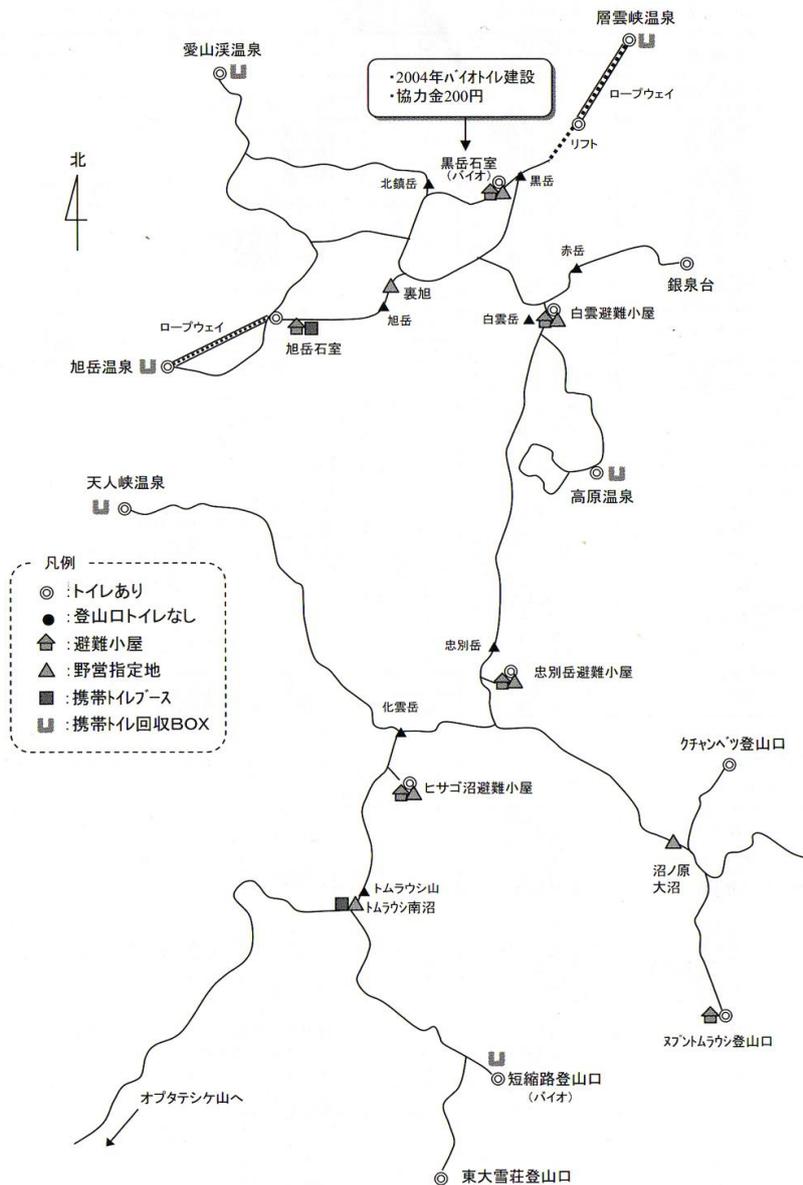
## 2009年 大雪山系～十勝連峰のトイレ・山小屋・野営指定地の状況

黒澤大助（山のトイレを考える会・札幌中央勤労者山岳会）

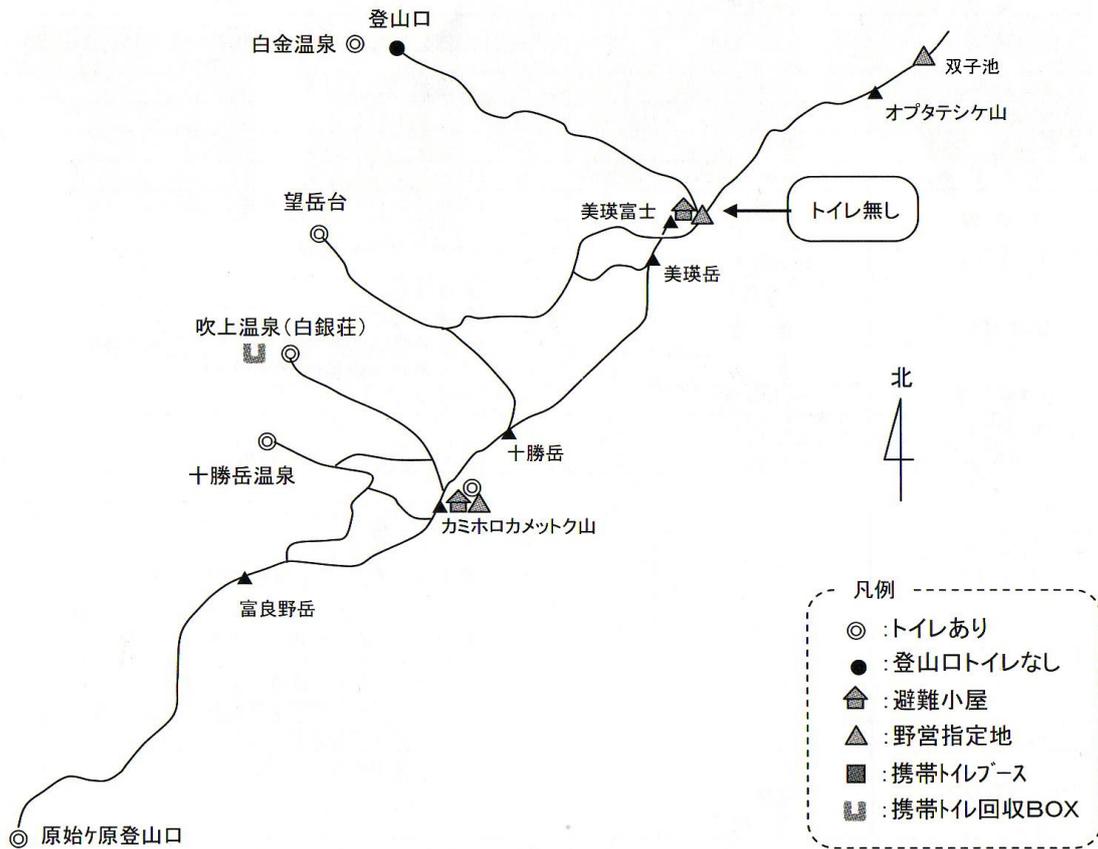
### 1. はじめに

私は山のトイレを考える会の活動に参加して2年が経ちます。いつか大雪山系から十勝連峰まで縦走し、その間にある野営指定地や山小屋のトイレの実態を自分の目で確かめたいと考えていました。2009年7月27日(月)～7月31日(金)の4泊5日で、大雪山系旭岳から十勝連峰・美瑛富士までの野営指定地・避難小屋・トイレ等を見てきたので報告します。奇しくも辿ったルートの一部は、今夏(7月16日)、大雪山トムラウシ山で大遭難事故が発生した同じルートでありました。遭難された方々のご冥福をお祈り致します。

### 大雪山トイレマップ



# 十勝連峰トイレマップ



## 2. 旭岳石室と携帯トイレブース (7月27日の状況)

旭岳石室はロープウェイ・姿見の駅から旭岳山頂登山コース沿いに20分程度のところに有ります。非常時以外の宿泊は禁止であり、トイレは設置されておらず、屋外に携帯トイレブース(屋根無し)があります。旭岳石室と携帯トイレのブースは非常にきれいで、周囲にゴミなども有りませんでした。



旭岳石室



携帯トイレブース

### 3. 裏旭野営指定地（7月27日の状況）

裏旭野営指定地は、旭岳山頂からお鉢平側に下った鞍部にあります。テント場は平らで水はけは良く中型テントを張るサイトが6つ程あり、雪溪の流水も得られます。ゴミを埋めた跡があり、下流にレジ袋・菓子の袋等が少々、排便の跡が一ヶ所ありました。このテント場にはトイレが設置されていません。入山者の状況と長期縦走を考えるとトイレを設置して頂きたいところです。



裏旭野営指定地のテント場



埋めたゴミ

### 4. 黒岳石室と黒岳バイオトイレ（7月27日の状況）

1) 黒岳石室；所有：上川町。大雪山系で唯一の営業山小屋（素泊りのみで食事の提供はなし）。管理人：石室とトイレの管理を上川町から榊りんゆう観光が受託して行っています。

2) 黒岳バイオトイレ；所有は北海道。維持管理は上川支庁・大雪山国立公園上川地区登山道等維持管理連絡協議会。北海道の山岳で初めての環境配慮型山岳トイレとして平成15（2003）年9月建設。方式：コンポスト式バイオトイレ。トイレ前の看板には、『このトイレは、山岳地の自然環境に配慮した施設です。太陽光・風力発電で、微生物の働きを高めるために必要な熱を供給しています。環境省・北海道』と記載されています。

私の感想は、建物の外観・便器等は非常にきれいで悪臭も無く快適に使用できました。

しかし、実際にはバイオトイレは、性能が発揮できず多くの問題を抱えています。管理人さんからヒアリングしたことや別に調査した情報は次のようなことです。

①風力発電機の補修や改良に毎年多額の費用がかかってきた。風力発電の騒音が、酷くて宿泊客が寝ずらい、強風で破損頻度多い等から現在は使用されていない。現在はソーラー（太陽光発電）と追加した発動発電機（ガソリンエンジン発電機）で電力を供給している。

②気温が下がると10時間以上発電機（ガソリンエンジン発電機）を動かさなければな

らない。

- ③ピーク時（7月の海の日等）には、三日に一度、水分過多になったおがくずをヒシャクで汲み取り、ビニール袋に詰めて小屋裏に積み、ブルーシートをかけていた。週末に上川支庁の職員や管理人、上川町役場、層雲峡観光協会などの方々がくみ取り作業を行う。天候が悪くて来られない時は管理人が行っており、当初の計画通りに機能せず、維持管理に要する時間、経費、体力面など関係者の負担が大きくなっている。
- ④ガソリン・物資・オガクズの輸送は、全てヘリコプターで行なっているとの説明を受けた。後日、上川町殿からのヒアリングでは、2009年の小屋閉めの時に全てのおがくずをヘリコプターで下ろし、その費用は90万円であったとのこと。

このように黒岳バイオトイレは、環境配慮型山岳トイレと言われながら緊急改善の必要性があります。関係者の英知を集めて平成22年（2010）年度シーズン中に改善対策が実現するように願っています。



黒岳バイオトイレ



黒岳石室



トイレ × 4室



2008年度のおがくず

## 5. 白雲岳避難小屋と白雲岳野営指定地と付帯トイレ（7月28日の状況）

所有；北海道。管理；上川支庁

小屋も特に問題なく、テント場は広く平坦で水はけが良く、雪渓からの流水も得られ、夏期は管理人が常駐している理想的な環境です。トイレは別棟（2穴）で貯留浸透式（通称ポットトイレ）ですが、大雪山系で最もきれいで悪臭もほとんどしません。

### 1) 大雪山系の避難小屋で、唯一管理人が常駐（夏期）している白雲岳避難小屋の維持管理・運用についてヒアリング結果（上川町殿よりヒアリング）

- ・管理団体；大雪山国立公園上川地区登山道等維持管理連絡協議会。
- ・事務局；上川町。協議会構成員；環境省上川自然保護官事務所・上川支庁・林野庁  
上川中部森林管理所・上川南部森作りセンター・教育庁上川教育局・層雲峽観光協会・上川山岳会・りんゆう観光・大雪高原温泉（日本製紙）
- ・有人期間の決め方；山開きに合わせる 6月末～9月末
- ・管理人は2人。一ヶ月23日として二人で相談して交代。費用；170万円（2009年度実績）

### 2) 登山宿泊者；野営指定地利用者及び徴収合計実績額

2009年 登山宿泊者： 1,372人×@（協力金 1,000円）＝ 1,372,000円

野営地利用者： 696人×@（協力金 300円）＝ 208,800円

合計 1,580,800円



白雲岳避難小屋帯



付帯トイレ



テント場



## 6. 忠別岳避難小屋・忠別岳野営指定地と付帯のトイレ（7月28日の状況）

所有；北海道。管理；上川支庁（無人）

小屋はかなり傷んでいました。1階左の床は、修理をされていますが、基礎から腐っているようでブヨブヨ状態です。1階右の窓ガラスに大きな隙間ができ、2階の窓枠2枚が蝶番から外れ、こちらにも大きな隙間が出来てしまっています。屋根のトタンが1平方メートルほど剥がれていました。



付帯のトイレは白雲岳避難小屋と同様に別棟（2穴）で貯留浸透式（通称ポットトイレ）です。トイレは左のトイレのドアの取手が壊れ、右のトイレの便器がひび割れ、汚れていました。忠別岳避難小屋及び付帯トイレは、かなり老朽化しており、近い将来改修の必要があると思われました。夜中に熊が小屋の回りをうろついていて、少し緊張しました。

忠別岳避難小屋



右側面全体の傷みが酷い



二階の蝶番から外れた窓枠



トタン屋根の剥がれた部分



付帯のトイレ



左ドアの壊れた取手



右トイレのひび割れた便器

## 7. ヒサゴ沼避難小屋・ヒサゴ沼野営指定地と付帯のトイレ（7月29日の状況）

所有；北海道。管理；十勝支庁（無人）

小屋の外壁はかなり傷んでいました。内壁のベニヤ板はカビています。トムラウシ山に最も近い避難小屋ですが、老朽化しています。テント場は、（雨上がりでしたが）雨が降ると水が付いて張り難くなる様子でした。

付帯のトイレは白雲岳避難小屋と同様に別棟（2穴）で貯留浸透式（通称ボットトイレ）です。便槽内に、ビニール袋などが少々見受けられました。トイレ内の（換気が悪く）悪臭がひどく、大雪山系の避難小屋の中で最も評判の悪いトイレです。大雪山国立公園の名前が泣きます。何とか改善したいものです。ヒサゴ沼避難小屋及び付帯トイレは、老朽化が進んでおり、近い将来改修の必要があると思われました。

補足；今夏（7月16日）のトムラウシ山の遭難事故をきっかけとして、ツアー登山

（ツアー会社）による避難小屋の場所取りに対する注意喚起が北海道HPに掲示されました。

「北海道管理の避難小屋ご利用にあたっての留意事項」

特に、先乗りしての場所取り行為、又は場所取りと疑われる行為は、絶対に行わないようにしましょう。



ヒサゴ沼避難小屋



付帯のトイレ



便槽の中のゴミ

## 8. 南沼野営指定地（7月29日の状況）

トムラウシ山南側直下にある気持ちの良いテント場でテントを張るサイトが中小6つ程あり、平らで水はけも良さそうです。この時は周辺に少しゴミが散乱していました。飲み水は雪溪からの融雪水です。夏も遅くなると枯れそうです。南沼野営指定地にはトイレがありません。木製の（天井が無い）携帯トイレブースが1基設置（十勝支庁）されており、渋い扉を開けると座ると壊れた簡易便座が置かれていました。大雪山国立公園の核心部です。日本百名山のトムラウシ山の野営指定地であり、本州からの登山者も多くの人々が利用する場所です。この状態のままで良いはずはありません。テント場からトイレ道が八方に広がっていて、岩影や這い松の中、沼の周辺には排便の跡、使い捨てティッシュが多数ありました。この時期に毎年来ているという登山者は「今年は天候が悪いので登山者が少ない為かまだきれいな方だ。」と話していました。ここも宿泊入山者の状況と縦走を考えるとトイレを設置して頂きたい場所です。

トムラウシ山遭難事故をきっかけとして、新たな避難小屋が必要だとの意見が地元等から出ています。トムラウシ山に新しい避難小屋が必要でしょうか？大いに疑問を持ちます。安易なツアー登山に宿を提供するだけにならないようにしたいものです。



携帯トイレのブースと壊れかけた簡易便座



ゴミ



周囲に排便の痕多数

## 9. 双子池野営指定地（7月30日の状況）

トムラウシ山の南側に広がる黄金ヶ原から十勝連峰のオプタテシケ山へ縦走していく間にある小さな野営指定地です。トイレはありません。野営指定地手前の池の側に中型テントを張るサイトが1つあり笹藪にティッシュが散乱していました。雪溪の流水が得られる野営指定地は小型テントを張るサイトが3つあります。

大雪山系と十勝連峰との間を縦走する登山者の人数は少ないので、常設トイレ設置ではなく現状のままでよいと思います。登山者は携帯トイレを使用するかトイレ紙持ち帰りを必ず心掛けたいものです。



双子池



双子池側のテント場



双子池側のテント場の排便の痕



荒れ果てた双子池野営指定地

## 10. 美瑛富士避難小屋・美瑛富士野営指定地（7月31日の状況）

所有；美瑛町。管理；美瑛町から委託を受けた美瑛山岳会等（無人）

十勝岳連峰の美瑛富士（1888m）の北側鞍部にあり、オプタテシケ山（2012m）への足掛かりとなる位置でもあります。避難小屋とテント場があるにもかかわらず、トイレは設置されていません。テント場は、中型テントを張るサイトが4つあり、粘土質で水はけが悪いです。雪溪は早く消えるため飲み水の確保には難儀します。避難小屋周辺の草むらへトイレ道があり、茂みに排便の跡・ティッシュが散乱していました。この場所へのトイレの設置については、「山のトイレを考える会」が10年前から運動をしてきまし

が、まだ、実現していません。なんとかしたいものです。

(第10回山のトイレを考えるフォーラム資料集より)

登山者数;年間約850人、避難小屋宿泊者数:約250人、テントの宿泊:延べ約20張り。  
トイレの規模を考えるには年間1500人程度、避難小屋およびテントの宿泊者500人、1日あたりの最大で60人程度の処理または貯留を行えるトイレ規模を想定が望ましい。



美瑛富士避難小屋



美瑛富士野営指定地



草藪の中の排便痕



草藪の中の排便痕

## 1.1. 終わりに

今般、大雪山系から十勝連峰まで縦走した中で驚いたのは、忠別沼周辺、化雲岳からトムラウシ山まで延々と続く立派な木道です。木道が必要な場所もありますが全く不要と思われる場所まで人工物の木道上を歩かされます。大雪山本来の自然を感じる魅力は何かということ及びこの建設費や今後の維持費を考えると大きな無駄を感じます。これを見て何故、環境省は裏旭野営指定地や南沼野営指定地にトイレを作ることが出来ないのか(予算が無いと理由を言い訳)大いに疑問を持ちました。

### 1) 北海道の山岳団体の山のトイレに関する活動状況

- ・北海道山岳連盟は、2007年羅臼岳、2009年 美瑛富士避難小屋周辺を50名規模で排便とティッシュの回収清掃登山を行いました。(2008年トムラウシ山は悪天候の為、中止)

- ・北海道道央地区勤労者山岳連盟は、毎年「秋のクリーンハイク」（山のトイレ考える会の活動に協賛）で山のトイレマナー袋の配布を各会単位で行っています。
- ・日本山岳会北海道支部は、昨年「道民カレッジ」（北海道の山における自然保護の現状）を開催し、山岳トイレの実情・高山植物の盗掘等を報告しました。

## 2) 北海道で初めて山岳団体交流会が開催されました。

2009年10月23日（金）5団体（北海道山岳連盟・札幌山岳連盟・日本山岳会北海道支部・札幌山岳連盟・北海道勤労者山岳連盟・北海道道央地区勤労者山岳連盟）28名の参加者で行なわれました。

目的：北海道山岳会の交流を推進するとともに、山岳と登山に関わる諸課題を話し合う場とする。自然保護部の交流・情報交換等による今後の活動が期待されます！

## 3) 環境省・北海道上川支庁に望むこと

現在、日本の登山者は600万人（レジャー白書）とも1000万人（（財）日本健康促進センター）とも云われ、そのうち何らかの組織に所属して山に登っているのが約20万人程度、これは全登山者の5%にも満たません。全国規模で組織化されている登山者は、労山が約2万人、日山協が約7万人で全登山者の1～2%です。夏山登山の100人中99～98人が未組織の登山者ということになります。山岳会は、会員の減少・高齢化傾向にあり、山岳トイレの維持管理を打診されても長期に渡って引き受けることが可能な団体は、ほとんどないのが実情です。

上川支庁は『大雪山の利用のあり方検討事業』を平成18年度から3ヵ年にかけて行いました。登山者数の増減に伴う種々の問題、トイレの不足・老朽化・方式の問題等について関係機関、事業者、地元山岳会、NPOなどが集まり、共通の認識をはかり解決策を検討するものでした。検討内容は、協力金のあり方、大雪山を利用するルール作り（カムイミンタラコード：仮称）などを一般公開で行いました。結局、いろいろと問題点は浮かび上がったものの、最終的に検討結果が一つの結論にはまとまりませんでした。

また、環境省は、2010年度に大雪山の山岳トイレの実態調査を行うようです。

次のことを強く求めたいと思います。

- ①大雪山の山岳トイレの設置・維持・管理・協力金のあり方に限定して関係機関、事業者、地元山岳会、NPOなどを集め、共通の認識をはかり、早期に解決案をまとめて、それを一般に公表して頂きたい。
- ②黒岳バイオトイレ、南沼野営指定地、美瑛富士野営指定地等の状況を登山者に周知徹底して、協力金の支払い割合向上や携帯トイレ使用の協力を得られることへ効果が上がる施策を実行して頂きたい。

## 4) 登山者に望むこと

山岳トイレ・避難小屋・野営指定地・登山道の整備等は、関係者の維持管理に要する時間、経費、体力面等へ大きな負担になっています。「ティッシュの持ち帰り。便層にゴミを捨てない。携帯トイレの使用。協力金へのご理解とご協力」を宜しく御願ひ致します。